



特集 世界に示せ！ 文化遺産@ JAPAN

世界遺産登録についてメディアに関わって思うこと

田代 博 / 03

プロジェクト「ふじぶらり」-「デジタル地図帳」で「地元遺産」を掘り起こす-

伊藤智章 / 06

「サムライ」の古都・鎌倉

吉村憲二 / 10

世界文化遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の現状

小川 護 / 12

日本の世界文化遺産の城-意外と多い? 日本の世界文化遺産の城とその周辺あれこれ-

坂井尚登 / 16

地図・古典を片手に巡る「古都京都の文化財」

安藤哲郎 / 19



《古地図ワンバイワン 112》東京復興事業進捗図
 《脳内散歩地図 43》徳川幕府利根川大改造地図 その32
 《日本風穴紀行 15》世界文化遺産を目指す、風穴界の覇王
 群馬県下仁田町の荒船風穴
 《地図が教えてくれたこと 37》富士山のポートレート
 《こちら院生室 19》京都大学大学院人間・環境学研究科共生文明学専攻
 文化・地域環境論講座地域空間論分野 石田曜・上野莉紗・長島雄毅 38
 《地図心中 3》【実況中継】絵地図師の仕事技...その2 「意味」を読み解く
 《江戸東京水際遊覧 再開19》坂の勾配 その5
 《絵葉書の地図コレクション 112》東京市域拡張記念・澁谷区
 読んでください! 見てください!
 編集後記 / 新刊地形図案内

山下和正 28
 江川達也 30
 清水長正 34
 平井史生 36
 高橋美江 40
 芳賀 啓 43
 鈴木純子 48
 46
 47



プロジェクト「ふじぶらり」

—「デジタル地図帳」で“地元遺産”を掘り起こす—

いとうともあき
伊藤 智章

1. はじめに

筆者は昨年6月からメーカーと共同で、地域限定型の「デジタル地図帳アプリ」開発に向けた社会実験を行っている。

我々、地元の人間にとって富士山は、「信仰と文化の拠り所」である以前に、「大きな里山」であり、郷土のシンボルである。デジタル地図帳は、富士山と暮らす我々が培ってきた歴史や、意味ある景色を掘り起こすのに一役買っている。それは、観光案内や学術文献には決して出てこない、ごくごくローカルな、内輪受けのようなものかもしれないが、そうした小さな「地域遺産」を丹念に集めて発信することで、富士山の「世界遺産」としての厚みが増すものと確信している。

ICTに強い地元の地理教師が始めた試みは、市民の賛同を得て、なかなか面白いものになってきた。1年目の取り組みを概観し、今後の展望について意見を述べたい。

2. 「ふじぶらり」の概要

デジタル地図閲覧アプリ「ちずぶらり」は、京都府精華町の関西学術文化研究都市にある、株式会社ATR

Creativeが出すアプリのシリーズである。自治体や地図のテーマに合わせた様々な「ぶらり」が存在する。

最近、スマートフォンでの利用を念頭に置いた「観光地図アプリ」が多く出回っているが、「ちずぶらり」シリーズは、あらかじめ端末に地図データをダウンロードしておけるのが特徴である。このため、携帯電話回線が内蔵されていないiPadでも、地図の閲覧や、地図に埋め込まれた情報(文字・写真・動画など)を見ることができる。

また、アプリに新たに地図を搭載する場合や、地図内に情報を埋め込む作業を行う際、特別なソフトを使ったり、ソフトウェア会社に委託する必要がない。クラウドコンピューティングシステムを使っているため、Webブラウザ経由で地図のアップロードや位置合わせ、情報の埋め込みができるため、「市民レベル」での地図情報の発信が可能である(写真1)。

「ふじぶらり」は、富士山麓の情報に特化したアプリである(写真2・写真3)。現在、富士市を中心に、9種類の地図を搭載している(表1)。行政の観光担当から提供を受けた観光情報や、独自に企画して掲載した地図など、今後も種類を増やしていく予定である。



写真1 Webブラウザ上で動作する「ちずぶらり」のクラウドシステム
アプリに追加する地図(左)を取り込み、Google Map(右)と対応させて位置合わせやポイントの追加を行う



写真2 「ふじぶらり」表紙
表紙は、「一般社団法人富士山観光ビューロー」提供のポスターを利用している



写真3 「ふじぶらり」地図コンテンツ選択画面

3. 「地元目録」で楽しむ地図

2012年6月11日にiPhone、iPad向けのアプリケーションとしてApp Storeで公開を始めた「ふじぶらり」は、2013年4月末現在で、合計2,146ダウンロードを記録した。そのうちの約2割にあたる419件が、海外からのダウンロードであり、

表1 「ふじぶらり」に搭載された地図 (2013年6月現在)

地図名	地図および付帯情報の提供元	内容
富士山100景	富士山観光コンベンションビューロー	富士市内の富士山眺望スポットを百地点指定して行われるアマチュア写真コンテスト。地点一覧図に入賞作品へのリンクを貼った。
田子の浦しらすマップ	富士山観光コンベンションビューロー	手描きイラスト風の絵地図で、名産のしらす販売店の位置を示した地図。地図のみ掲載
富士市桜マップ	富士山観光コンベンションビューロー	ビューローの職員が自作。市内の主な桜の名所が網羅されている。
岳南鉄道沿線マップ	岳南鉄道(株)	ローカル私鉄沿線の名所や食事処を載せた絵地図。地図のみを掲載
マイルール： 岳南鉄道クラシックス	岳南鉄道(株) 国土地理院(地形図)	利用許諾を得た昭和35年ごろの旧版地形図上に、新聞連載された地元鉄道愛好家の記事と写真を埋め込んだ。
吉原商店街 ガイドマップ	吉原商店街振興組合	東海道13番目の宿場町である「吉原宿」の名残を残す商店街の店舗一覧(地図のみを掲載)
吉原旧町名地図	NPO法人東海道・吉原宿ラジオf	吉原宿内の各町内の区分図の上に、6月に行われる「吉原祇園祭」の写真と山車の紹介を埋め込んだ。地元コミュニティFM局が録音した町内ごとのお囃子の音色が流れるようになってる。
つけナポリタンマップ	富士商工会議所	テレビ番組の企画がルーツの吉原商店街の象徴的B級グルメ、「つけナポリタン」の店の分布と店舗紹介。
絵葉書で見る 明治の富士	国土地理院(旧版地形図、 絵葉書収集家)	明治初期、外国人向けの色鉛筆で着色された絵葉書を、撮影場所毎に掲載。



写真4 「富士山百景マップ」①地図概観画面



写真5 「富士山百景マップ」②写真表示画面

ダウンロード先は世界26カ国・地域にわたっている¹⁾⁰。

「市民アプリ」としてスタートして、外国語の解説も入っているわけではないのだが、内外から注目されているところを見ると、「富士山」「ふじ」のブランド力の高さを痛感している。特に人気の高いコンテンツを取り上げて、「ふじぶらり」の世界を紹介する。

(1)富士山百景マップ —アマチュアカメラマンによる 「富士山」カタログ

「富士山百景マップ」は、毎年富士市が行っている、アマチュア写真家向けのコンテストの応募作品をまとめたものである(写真4・写真5)。

主催者である「一般社団法人富士山観光交流ビューロー」は、Webサイト

でこのコンテストの意義について、次のように述べている²⁾⁰。

「以前は静岡県側(特に富士市側)の富士山はあまり作品が多くなく、写真撮影地として有名ではありませんでした。しかし、今では、富士市からの富士山をひそかに楽しんでいるマニアな富士山写真家は数多くいます。その素晴らしい撮影ポイントを、全国の富士

山ファンに知っていただくために富士山百景写真コンテストは開催されています(下線部筆者)

確かに、富士山の写真を撮りに訪れるアマチュアカメラマンは多いが、人気の撮影場所は限定されてしまっている。市内のあらゆる場所から富士山は見えるが、そうした「普段着の富士山」を絵葉書やカレンダーで見かけることはほとんどなかった。

2006年度から始まったこのコンテストでは、あらかじめ市内を100箇所に分けた「撮影エリアマップ」が公開され、応募者はそのいずれかのエリアに出向いて富士山の写真を撮影し、応募する際は、必ずエリアの番号を添える。入賞は「グランプリ」「準グランプリ」「佳作」等の総合審査に加えて、応募した各エリアを代表する写真を選ぶ「エリア賞」に分かれている。人気のあるエリアでは競争が激しくなるが、応募者が少ない「マニアな」場所を選んで応募すれば入賞の可能性が高い。また、入賞作品は、年末に市役所が市内の全世帯に配布する「富士山カレンダー」に掲載される。毎年このカレンダーを楽しみにしている市民も多く、「地元の富士」が載ると、大いに話題になるので、「カレンダー掲載」を目指して毎年応募を続ける地元のカメラマンも少なくない。

過去の入賞作品と、「撮影エリアマップ」は、主催者のWebサイトで見ることができるが、地図は地図、写真は写真と別々に掲載されている。「ふじぶらり」では、この地図と写真を統合してオフラインでも安定して閲覧出来るように工夫した。

携帯端末上に地図を載せて、現在地を表示した上で、各エリアに埋め込まれたピンに触ればそこで撮影された過去の入賞作品を見ることができる…非常に単純な仕掛けであるが、大変好評であり、「ふじぶらり」の看板マップになっている。

(2)マイレール：岳南鉄道クラシックス

「マイレール」は、富士市在住の鉄道愛好家(「鉄道友の会静岡支部副会長」の石川勝久氏が、地元紙「静岡新聞」に、約30回にわたって連載したエッセ

イのタイトルである。昭和30年代の富士市と、開業間もない岳南鉄道の思い出を、当時の写真を織り交ぜながら綴った連載は大いに評判を呼んだ。最終回では、青少年期を沿線で過ごした故・いかりや長介氏が寄稿している。

「ふじぶらり」プロジェクトを温めていた2012年の3月当時、岳南鉄道の存続が危ぶまれた事があり、岳南鉄道関係のマップを載せることで何か支援ができないものかと思って岳南鉄道本社に出向いた。その際に、このエッセイの切り抜きの束と、写真の原版を託された。

昭和30年代の地形図上に、昭和30年代の写真と解説文を埋め込み、現地を歩いて往時をしのぶ…コンセプトは極めて単純であるが、昨今の「古地図ブーム」「鉄道ブーム」も手伝って、根強い人気を博している。

4. 展望 —世界遺産時代の「ふじぶらり」

「日本発、完全市民主導型の地図アプリ」をうたい文句に(高校の地理教師によるプロデュースというのも、恐らく初めてだろう)進めている「ふじぶらり」プロジェクトを概観した。世界遺産登録が間近になった今、因らずも「富士」を冠したアプリの作者として、その立ち位置と今後の展開について、考えを述べたい。

「世界遺産」制度自体や、登録に向けて努力を重ねてきた方々を批判するつもりはないが、地元の住民の一人として気になるのは、「世界遺産フィーバー」に沸く人々と、それをクールに眺めている一般市民との温度差であ



写真6 「岳南鉄道クラシックス」(旧版地形図画面)



写真7 「岳南鉄道クラシックス」(現代のApple Map画面)

る。「富士山を世界文化遺産に」を合言葉に、行政や関係団体が運動し、ようやくそれが実現しそうなところまで来ているが、一般の市民は、「ああ、また観光客が増えるな」といった認識を持つ程度で、強い関心を示している人は少ない。観光が基幹産業になっている山梨県側と比べて、静岡県側の各市町村は、工業や農業など、観光以外の産



写真8 「岳南鉄道クラシックス」旧版地形図の拡大画面



写真9 「岳南鉄道クラシックス」写真の表示
(昭和38年頃。指で示している高架橋は、建設中の東海道新幹線)

業に従事している人が多い上、登山客も8割が山梨県側から入っていることもあり、住民の意識として、「観光による地域の活性化」「訪れる人をもてなす」といったことに現実味を感じてない人が多いのかもしれない。ただ、それは極めて普通の反応であり、外から非難されるものでもないし、まして学校教育等を通じて、啓蒙を要するもの

でもないとは筆者は考えている。

我々ふもとの住人達は、富士山の恵みを楽しむ一方で、時に自然の浄化力を越えて乱用した結果、深刻な公害をもたらし、環境破壊を繰り返してきた。そうした「負の遺産」を精算し、回復の途上にある事も忘れてはならない。また、登山道にあふれるゴミや、森林への不法投棄の問題は、手っ取り早く売り上げを伸ばす一方で、環境への犠牲を強いることで「コスト」負担を回避してきた大都市圏の経済の論理のあだ花でもある。これらの深刻な問題を解決するのに莫大な財政負担が必要なため、当初目指していた「自然遺産」としての登録は、日本政府の検討段階で却下された（決して世界遺産委員会が拒否されたわけではないが、そのように誤解している人が多い）ことも忘れてはならない事実である。

祝賀ムード一色の「世界遺産登録」キャンペーン線を描す形で、「小さな遺産」や「負の遺産」にもスポットを当て、真の意味で「次世代に遺すべき文化の継承」することが市民活動の使命であり、「ふじぶらり」は、その象徴となっていくのではないだろうか。

5. おわりに

「デジタル地図帳」システムが普及すれば、地図の使い方や、地域の情報発信は劇的に変わって行くのではないかと。「ふじぶらり」は、そんな仮説を次々に現実のものにしつつある。

これまで、自治体や観光協会が作る「観光案内図」は、限られた予算とスペースの中に多くの情報を詰め込んでいるため、初めてその街を訪れた人間

にとっては決して使いやすいものではなく、地元の人間にとってもどこか縁が薄いものだった。

「デジタル地図帳」を使えば、初めから利用者のターゲットを絞り込んだ地図を作ることができる。また、「観光キャンペーン」には出てこない普段着の郷土の姿や、「負の遺産」を含めて、「市民が親しみ、学べる地図帳」を作っていくことで、「世界遺産の地元」としての文化的厚みが増えていくに違いない。

高校の地理教員による手弁当で始めた「社会実験」は、世界遺産ブームも手伝って大きく注目されるようになってきた。現在、「ふじぶらり」入りを待っている地図や企画も複数ある。また、各国の言語への対応も同時進行で進めなければならない。

こうした事情を踏まえて、「制作実行委員会」を立ち上げて、組織的な活動を行う事が2年目の課題である。また、地図製作や街歩きワークショップの実施など、市民を巻き込んだイベントを積極的に仕掛けていければと思う。

1) 海外からのダウンロードで、主な国とダウンロード数は以下のとおりである。中国：169、台湾：81、香港：51、アメリカ：44、タイ：15、マレーシア：13。

2) <http://www.fujisan-kkb.jp/gallery/>

伊藤智章

静岡県立裾野高等学校教諭。1973年静岡県富士市生まれ。立命館大学大学院地理学専攻博士前期課程修了。



2012年まで勤務した静岡県立吉原高校で、「ふじぶらり」プロジェクトを開始。富士山の東麓に拠点を移した今春から、新たな地図コンテンツを広げるべく準備を進めている。

著書：「いとちり式 地理の授業にGIS」(古今書院)

Webサイト「いとちりポータル」
<http://www.itochiri.jp>